

小曽根病院

住所	豊中市豊南町東2丁目6番4号	電話	06-6332-0135
病床数	564床	病棟数	9病棟

人権センターニュース No.87 より

オンブズマン活動報告

平成 19 年 12 月 18 日訪問

病院全体

新館は平成 18 年築。本館は平成 19 年に増改築。同じ敷地内に老人保健施設、訪問看護ステーション、福祉ホーム B 型等があった。近隣には地域生活支援センターやグループホーム、援護寮等がある。

前回の訪問時(平成 15 年 8 月)、院長から「コインランドリー、トイレの紙、ナースコールとも設置に向けて検討してみる」との説明があった。その後の新築や増改築で、1 人あたりのスペースが広くなり、ベッドごとにカーテン、部屋ごとにナースコール、病棟ごとにコインランドリーが設置され、隔離室の音がつつめけであった問題も改善された。しかし、トイレ個室には紙が備え付けていなかった。

各病棟の電話は引戸のついた広めの個室でプライバシーへの配慮が見られた。室内に意見箱があった。他の病棟、大阪弁護士会、保健所の電話番号が掲示されていた。大きな字で書かれ、見やすかった。

敷地内に「ローズガーデン」という庭があり、ブース風の目隠し付で木製のベンチがあり、飲料等の自動販売機が設置。面会者なども使うことがある。

病院側の説明

- (1)人権擁護委員会：委員長は PSW で開催は 1 回/2 ヶ月。意見箱は各病棟と外来に設置。回収は 1 回/月。記名のある投書は患者に返事をし、匿名の投書には 2 週間くらいの間病棟に掲示をする。
- (2)行動制限最小化委員会：設置している。
- (3)担当制：担当看護師、担当 PSW はいる。
- (4)診察：病棟ごとに診察室がある。
- (5)服薬：基本的には看護師が病室をまわる。待ちきれずに詰所に取りに来る患者もいる。
- (6)外出：「外出・外泊証」に記入し、1 枚を詰所に提出。詰所横に自動扉があり、開放病棟はそこから自由に出て行けるが、閉鎖病棟では職員が開錠する。閉鎖処遇患者は 1 回/週、職員同伴で売店に行く。
- (7)金銭管理：管理費 100 円/日。鍵付きロッカー 100 円/日。段ボール箱 1 個 100 円/日。
- (8)食事の選択メニュー：現在は休止中。再開したい。
- (9)入浴：週に 2 回。
- (10)面会：各病棟に面会室がある。面会時間は午前 10～12 時と午後 1～4 時。
- (11)携帯電話：病棟外での使用はできる。
- (12)院内売店：ある。現金、プリペイドカードで払う。
- (13)地域医療連携室：病棟担当の PSW は 6 名。

--本館-----

本館 3 階 (閉鎖 女性 69 床 精神一般 15 : 1)

病院側の説明 内科治療の必要な患者が中心で高齢者が多い。任意入院 42 名、医療保護入院 25 名。寝たきり、特養入所待ちの患者が多い。

病棟の様子 平成 19 年 6 月に 2 つの病棟を 1 つにし、6 人から 4 人部屋に改築。広いデイルームが 2 ヶ所あり、椅子もゆったりしている。各ベッドに私物を置く棚には鍵のかかる部分もあった。棚に入らないものは、段ボール 1 箱 100 円/日で病院が預かる。

【トイレ】手洗い横にナースコールがあった。

患者の声「入院10年以上になるが、暮らしやすいです」「床の汚れが掃除しても取れてない」「作業センターに参加しているんなことができる」「食事時間は介助の必要な方は5時頃、それ以外は5時半ころから」

本館4階（閉鎖 男性 69床 精神一般15：1）

病院側の説明 入院患者の層は高齢で認知症の患者が多い。体幹拘束者7名、点滴の際に拘束者数名、徘徊などを理由として夜間のみ身体拘束者数名。

--新館-----

【病室】4人部屋が中心。木目調の床頭台と整理ダンスには鍵付き部分があった。ベッド周りとはカーテンがあった。各部屋の入口付近にナースコールが1つ。3階は閉められているところも多くあった。ポータブルトイレのある部屋もあった。

【トイレ】清潔で明るかった。手洗い横には温風器、個室にナースコールがあった。

【デイルーム】レースのかかった窓から光が入り、明るかった。床、机や椅子も木目調。給湯茶器や自動販売機があった。詰所は施錠されていて、インターホンがあった。夜勤帯など職員が少ない時に職員が詰所奥にある隔離室に行っている時など詰所に用事のある患者が看護師を呼ぶために設置。用事のある患者がカウンターの窓から看護師と話していた。

【隔離室】詰所の奥。2階は4室、3階は2室で全て使用中。正面には吹き抜け部分に面する窓があった。看護師を呼ぶためには集音マイクを使用。

新館2階（閉鎖 男女 60床 急性期治療）

病院側の説明 急性期の患者が中心で3ヶ月をめどに退院、転棟。年齢層は幅広いが30～40歳代が多い。金銭の自己管理5名。任意入院の約半分が開放処遇。

病棟の様子 デイルームや廊下の椅子等、病棟の様々なところに患者がいて活気があった。病棟奥にある洗面台の鏡の前で病院職員が散髪をしていた。複数の患者と冗談を交えて話していた。

患者の声「隔離室で煙草は1日5本と制限されていて、弁護士を呼んで話をしてもらったら10本に増やせた」「トイレは和式で蓋はなく、水は自分では流せない。腕時計を隔離室に持っていった」「病院に預けてある金は、入金・出金も日付順に項目と費用とが一覧表になり、配られている」「中のものが盗まれたことがある。ロッカーの鍵代を払うのがきついで、鍵は使っていない」「入院した時に3ヶ月をめどに退院と言われている」「隔離室はつらかった。窓はあるが暗かった」「意見箱に意見をいれた。返事が来る頃には退院かもしれないが、これから入院する人にとって少しでも良くなればと思う」

新館3階（閉鎖 女性 60床 精神一般15：1）

病院側の説明 慢性期の患者が中心だが、新館2階で3ヶ月を経過した患者が転棟してくることもあり、患者層の幅は広い。任意入院48名、医療保護入院9名。平均は40歳代。金銭の自己管理は5～6名。任意入院の約半分は開放処遇。

病棟の様子 デイルームに数名いたが病室で過ごす患者も多い様子で全体に静かだった。不安を口にする患者がいたが職員が丁寧に対応をしていた。午後4時15分頃には夕食の配膳車が到着していた。

新館7階（開放 女性 55床 精神療養）

病院側の説明 全員が任意入院で開放処遇。入院1年未満の患者もいるが、長期在院(10～30年)の患者が多い。50～60歳代が多い。PSW1名が個別に必要な患者につく。この病棟から自宅、アパートや福祉ホーム等に退院する患者がいる。退院にはチームで関わるが時間がかかる。リーダーは主治医で、話し合いには家族や本人も入る。

レクリエーションに参加するよう積極的に働きかけている。SSTでは困った時の対応や、お好み焼きづくりなどをし、社会生活で楽しみを見つける力をつけるようにしている。40数名がOTに参加している。患者ごとにOT担当者がある。長期入院により外に出る怖さを訴える患者が多い。天気の良い日、近くの公園やレストランへグループ外出をこころみている。

患者の声 「トイレは、洋式になって使いやすい。」「朝は、パンか粥か選べる。」「電話ボックスは、スリガラスがついていて、顔がみえないので落ち着く」「運動する機会が少ないので運動不足になる」「看護師は親切に対応してくれるため助かっている」「棚がたくさんあるから、荷物がおきやすい」

福祉ホームB型「さつき」(定員20名)

病院側の説明 小曽根病院での入院が長期化している患者、高齢の患者が入居対象者。毎月1回の食事会ではみんなで買い出しをし、食事は当番制で作る。土日の食事はバイキングで、自分の好きな物を食べられる。職員寮だった建物を福祉ホームにしたため、段差や急な階段があり、バリアフリーが課題。

ホームの様子 2階のホールに数名いた。3階は廊下を挟んで両側に個室20室があった。ロッカー、カラーボックス、洗面台、流し台と押し入れ等あり個室は6畳くらいの広さ。布団の人もベッドの人もいる。

入居者の声 「広さは、ちょうどいい」「はじめは1人で泊まるのが怖かった。たくさんの方がいる部屋に慣れてしまっていた」「部屋の入口などに小さな段差があるので、つまずきやすく危険」「煙草は2階のテラスで吸える。落ち着ける」

検討事項

【トイレトペーパーの備え付け】

トイレの個室にトイレトペーパーがなかった。患者から「ちり紙は売店で買う。トイレに置いてほしい」との声があった。他の病院ではトイレの個室内にトイレトペーパーを備え付けていることから、個別患者の治療、看護上の課題を病棟管理上の便宜に置き換えているのではないかという疑問がある。改善を検討していただきたい。(病院：過去に紙の異食の事例があり関係者で検討した結果、設置を見合わせています。再発生防止に取り組むとともに設置については検討を行うように努力していきます。)

【ポータブルトイレ使用時のプライバシー】

本館3階病室内のポータブルトイレが目立ち、用を足している姿が廊下から見えた。スタッフからは「カーテンがあるのに閉めてされない方が多い」と説明を受けた。ポータブルトイレの設置位置がカーテンレールの範囲の外にある光景もあった。廊下から見えず、プライバシーが守られるように検討していただきたい。(病院：設置場所(区域)の問題であると理解しました。今後は利用者の意向も組み入れながらも、利用していただくように努めます。)

【身体拘束について】

本館3階・廊下や他の患者から見える状態での4人部屋での身体拘束は、個人のプライバシーや尊厳の保障のため改善するよう検討をお願いしたい。

- ・使われていない拘束具が患者の傍に置いてあり、患者に不快感や圧迫感を与えると感じた。
- ・体幹拘束の患者は全ておむつを使用しており、自分でトイレに行く患者はいないという説明もあった。トイレ介助やポータブルトイレの使用も含め、何らかの改善を検討できないだろうか。(病院：ここに設置のカーテンを充分利用しプライバシーの保護を確保し各行為等を行うように努めます。必要でない拘束帯に関しては詰所等で管理していきます。)

【病棟奥にあるトイレの使用時間】

(新館)病棟の2箇所にトイレがあるが、患者からは「9時以降に近くのトイレが閉まるので、遠くのトイレまで行くのが大変」等の声があった。夜中でも2箇所とも使用できる方向で検討していただけないだろうか。(病院：新館2階病棟のみ消灯後施錠、他の病棟は常時開放しています。)

【カーテンの使用】(新館7階)

患者から「夜8時半にカーテンを閉めなさいと言われる。昼間は開けておくようと言われるので、閉められへん」との声があった。患者が必要と感じた時にカーテンを使用できる方向で検討していただきたい。(日中は出来るだけ生活のリズムを整える意味でカーテンはなるべく開けていただくようお願いしています。但し夜間閉めないことによる弊害も発生しないとは限りませんので、そのつど検討します。)

【入浴について】

・衛生面、生活上の楽しみという面でも、入浴が2回/週(特浴は1回/週)は少ないのではないだろうか。
・本館3Fでは、手すりはあるものの、一般浴の浴槽への階段が高く、浴槽が深かった。患者からは「(改修してから)浴槽が深く入りにくい」との声があった。(病院：夏場のみ(7月~9月)シャワー浴の日を新たに設けております。今後はさらに処遇向上に努めたいと考えています。機能的な構造変更は難しいため、患者の希望にそい今後は転棟や退院可能性も含め調整が行えるように努力していきます。)

【夕食の時間】

病棟の案内等では夕食の時間は6時からとなっていたが、実際は5時半や5時45分から配膳され、介助がいる人や食事に時間がかかる人はさらに早く夕食を始める。6時から夕食をとれる環境を整えていただきたい。(病院：看護・介護状では提供時間に大幅な差はありえないが、ここの治療上のことで同一時(夕食喫食開始時間は6時以降)に配膳等ができない事があります。(夕食の提供のための配膳はやむをえない理由があるときは6時を中心とした時間でありますが5時30分より後です。但し温冷配膳車の移動、配置操作は6時前より行っています。))

【福祉ホームでの昼間の居場所】

昼間はデイケアかホールにいて、部屋にはいないようにすることになっているようだった。1人になりたいときに、自室で過ごすことが当たり前の選択肢にならないのだろうか。(病院：日中の過ごし方は、入所の方に選択していただいております。意見のような現状はないと認識しています。)

H19 大阪府精神保健福祉関係資料より(小曾根病院)

543名の入院者のうち統合失調症群が425名(78%)、認知症など症状性を含む器質性精神障害が41名(8%)、気分障害が338名(7%)。入院形態は任意入院436名(80%)、医療保護入院107名(20%)。在院期間は1年未満が188名(35%)、1年以上5年未満が159名(29%)、5年以上10年未満が63名(12%)、10年以上20年未満が63名(12%)、20年以上が67名(12%)。(H19.6.30時点)